



議員が行った一般質問は、市政にどのように反映されているのでしょうか。これまでの質問の中から取り上げて、その後の状況をお知らせします。

「早乙女桜並木の整備について」

令和7年 第2回定例会
令和3年 第1回定例会

整備前について

早乙女の桜並木は、1925年、当時の青年団が県道の整備に合わせ100本のソメイヨシノを植栽し、長く、喜連川の桜といえは早乙女の桜並木を思い起こさせるほど、地域のシンボルとして、愛されてきました。

しかし、てんぐ巣病に罹るなど、晩年は樹勢の衰えが目立ち、枝の落下が多発し、車道を通行する方にも支障を及ぼすような状態でした。また、道路の斜面に植えられていたため、維持管理上においても作業が難しく、なにより桜自身にとっても過酷な生育環境であったと言えます。

整備後について

市は栃木県と協議を重ね、県道の歩道整備に合わせ、出来る限り桜の生育に配慮した植樹帯を設け、新たにてんぐ巣病に強いとされる桜(ジンダイアケボノ)を104本植栽し、将来のシンボルロードとなるような「早乙女桜並木再整備事業」を進めることになりました。

この事業は令和2年度に開始し、令和8年度末に完了予定です。整備後には歩道や駐車場も新たに設けられ、市内外の皆様がより安全・快適に桜並木を楽しめる環境が整う予定です。また、伐採した桜(ソメイヨシノ)はボールペン、グリップやタンブラー、お箸などに加工され、皆さまと共に100年の歴史を感じながら末永く愛用してもらえるような記念品に生まれ変わっています。



整備前の桜並木



伐採木加工品



さくら市ホームページ